

# 第57期 報告書

令和5年4月1日～令和6年3月31日



ホテル立山

立山貫光ターミナル株式会社

## 事業概況 (令和5年4月1日～令和6年3月31日)

令和5年度の事業概況についてご報告申し上げます。

令和5年度は、長期化するウクライナ紛争に加え、パレスチナでも軍事衝突が勃発し、国際情勢の不安定さに拍車がかかると共に、円安の進行とも相まってエネルギー価格・物価の高騰などが続きました。一方、観光業界においては、新型コロナの水際対策の終了や5類感染症への移行が追い風となり、本格的な旅行需要の回復がみられました。

そうした中、立山黒部アルペンルートの営業再開に合わせ、ホテル立山・室堂ターミナルに於ける宿泊、飲食及び物品販売、及びホテル立山売店部・立山駅店、黒部平店は4月15日に営業を再開し、11月30日まで営業いたしました。

営業の推移を概観いたしますと、立山黒部アルペンルートはコロナ禍以降実に4年ぶりに多くのお客様で賑わい、ホテル立山につきましても、国内客の順調な推移に加え、入国制限の撤廃や円安の影響により海外客の利用が想定より早く回復し、シーズンを通して好調に推移し、前期を上回りました。

この結果、ホテル立山宿泊人員は合計25,214人（前期比104%）となり、当期の営業収益は、ホテル立山収入7億80百万円（前期比113%）、店舗（飲食・物品）収入9億18百万円（前期比173%）となり、店舗外収入25百万円、賃貸収入1億86百万円を加えた営業収益合計は19億9百万円（前期比134%）となりました。

営業費につきましては、前期から引き続き、経営全般にわたる業務の効率化や勤務体制の合理化による費用抑制に努め、営業費合計は17億5百万円（前期比126%）となりました。

これに、営業外収益19百万円、営業外費用9百万円を加減した当期の経常利益は2億14百万円となりました。さらに、ホテル立山の事業譲渡益、法人税等並びに税効果会計による法人税等調整額を加減した結果、3億36百万円の当期純利益を計上し、前期に続き、黒字を計上いたしました。

部門別営業成績は次のとおりであります。

## ホテル立山宿泊営業成績表（令和5年度）

項 目	実 績	前期比%	
営業日数	228	104	
宿泊人員	25,214	104	(備考)
一日平均宿泊者数	111	100	営業期間(当期)
営業収入	780,060	113	令和5年4月15日～令和5年6月19日
宿泊収入	773,604	113	令和5年6月22日～令和5年11月30日
雑収入	6,455	175	(宿泊日数226日)
一日平均収入	3,421	109	営業期間(前期)
客室数	81	100	令和4年4月15日～令和4年8月12日
延使用客室数	11,612	103	令和4年8月23日～令和4年11月30日
客室回転率	63	99	(宿泊日数218日)
宿泊定員	260	100	
宿泊効率	43	100	

## 室堂飲食及び物品販売業営業成績表（令和5年度）

項 目	実 績	前期比%	(備考)
<b>【店舗営業】</b>			店舗営業期間(当期)
店舗営業日数	230	100	令和5年4月15日～令和5年11月30日
室堂到達人員	564,030	161	
店舗営業収入	918,199	173	店舗営業期間(前期)
食堂収入	316,525	227	令和4年4月15日～令和4年11月30日
喫茶収入	189,078	170	
物品販売収入	407,104	149	(美女平店、大観峰店は令和5年度営業
雑収入	5,491	98	休止)
一日平均収入	3,992	173	
店舗営業収入/室堂到達人員	1,628	107	
<b>【店舗外営業】</b>			
店舗外営業収入	25,218	109	
PB商品販売収入	10,001	102	
物品販売収入	15,051	115	
雑収入	165	96	

## 財産および損益の状況の推移

区 分	第54期 (令和2年度)	第55期 (令和3年度)	第56期 (令和4年度)	第57期(当期) (令和5年度)
売上高(千円)	609,710	927,394	1,424,536	1,909,485
当期純利益(損失)(千円)	△909,248	△129,847	83,561	336,847
1株当たり当期純利益(損失)	△1,010円28銭	△144円27銭	92円84銭	374円27銭
総資産(千円)	1,857,965	1,530,679	1,530,378	1,640,515

# 令和6年度の取り組み

## 1. 収益力の維持・向上と持続可能な事業運営へ向けて

令和6年度は、コロナ禍からの回復を命題とした中期経営計画（令和3年度～7年度）の4年目に当たります。今後、更なる経営基盤の強化を目指し、持続可能な事業体制の構築を進めてまいります。

当社では、室堂ターミナルの宿泊並びに立山黒部アルペンルートの飲食・物品販売事業に専念しながら業績の回復を目指してまいりました。今期の営業におきましても、引き続き、収益の向上を図るべく、山で泊まらなければ経験できないオンリーワンな魅力やサービスに磨きをかけ、高付加価値のある商品を提供してまいります。

今後も多くのお客様に楽しんでいただき、立山黒部の素晴らしさが広く伝わるよう職員一丸となって邁進いたします。

先般、当社が所有、運営する室堂ターミナルビルについて、株式会社星野リゾート（以下「星野リゾート」）との間で、ホテル立山の不動産譲渡に関し合意いたしました。今後、星野リゾートをビジネスパートナーとして、連携・協働することで、立山黒部アルペンルートの中長期的な価値向上を目指してまいります。

ホテル立山は、当面の間、これまで通り当社が運営し、将来的には星野リゾートが新たなホテル運営を行う予定です。同じく室堂ターミナルビル内にある室堂駅（運輸事業、レストラン・売店事業）は引き続き当社グループが所有、運営することとしており、それに伴うターミナル事業のリニューアルにつきましても具体化に向けた検討を推進いたします。

## 2. 宿泊・食品の安全確保と自然保護

当社施設や食品の安全については、お客様が安心・信頼してご利用いただけるよう、今後とも万全を尽くしてまいります。施設の日常点検と整備、並びに食品の衛生管理と品質管理を徹底してまいります。

また、特異な環境に配慮した施設設備の維持更新やごみ処理対策の徹底等、引き続き立山黒部の大自然を守り伝えるための努力を続けてまいります。

今後も多くのお客様に支持していただき、選び楽しんでいただける立山黒部アルペンルートへと進化するために、役職員一同全力を傾注してまいります。

今後とも、変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

# 財務諸表

## 貸借対照表の要旨

(令和6年3月31日現在)

(単位：百万円)

科目	金額	科目	金額
<b>(資産の部)</b>		<b>(負債の部)</b>	
<b>流動資産</b>	<b>405</b>	<b>流動負債</b>	<b>275</b>
現金及び預金	328	買掛金	20
売掛金	0	短期借入金	6
未収金	3	関係会社短期借入金	71
未収法人税等	0	リース債務	5
商蔵品	16	未払金	48
貯蔵品	45	未払費用	4
前払金	5	未払法人税等	0
前払費用	4	未収消費税等	83
その他	0	預り金	5
		賞与引当金	29
<b>固定資産</b>	<b>1,235</b>	<b>固定負債</b>	<b>929</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>971</b>	長期借入金	28
建物	490	関係会社長期借入金	368
建物附属設備	245	退職給付引当金	493
構築物	53	長期未払金	39
機械及び装置	5		
車両及び運搬具	0	<b>負債合計</b>	<b>1,205</b>
器具及び備品	44	<b>(純資産の部)</b>	
土地	119	<b>株主資本</b>	<b>384</b>
建設仮勘定	13	資本金	10
<b>無形固定資産</b>	<b>7</b>	資本剰余金	83
ソフトウェア	6	その他資本剰余金	83
電話加入権	1	利益剰余金	290
<b>投資その他の資産</b>	<b>255</b>	その他利益剰余金	290
投資有価証券	124	繰越利益剰余金	290
関係会社株式	35	<b>評価・換算差額等</b>	<b>50</b>
繰延税金資産	65	その他有価証券評価差額金	50
その他	31		
		<b>純資産合計</b>	<b>434</b>
<b>資産合計</b>	<b>1,640</b>	<b>負債・純資産合計</b>	<b>1,640</b>

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。また、消費税等の会計処理は、税抜方式によっております。

## 損益計算書の要旨

(令和5年4月1日～令和6年3月31日) (単位：百万円)

科目	金額
売上高	1,909
売上原価	375
売上総利益	1,534
販売費及び一般管理費	1,330
営業利益	204
営業外収益	19
営業外費用	9
経常利益	214
特別利益	57
特別損失	0
税引前当期純利益	271
法人税等調整額	△65
当期純利益	336

## 株主資本等変動計算書

(令和5年4月1日から令和6年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株主資本				評価・換算差額等 その他有価証券 評価差額金	純資産 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本 合計		
		その他 資本剰余金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金			
当期首残高	10	83	△46	47	△14	33
当期変動額						
当期純利益			336	336		336
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)					64	64
当期変動額合計	0	0	336	336	64	401
当期末残高	10	83	290	384	50	434

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 会社概要／役員 (令和6年6月27日現在)

●設立年月日 昭和42年12月24日	●役員 代表取締役社長 見角 要
●資本金 1千万円	常務取締役 経営管理本部長・経営企画部長 田草川健二
●発行済株式総数 900,000株	常務取締役 経理部担当・営業推進部担当 大谷 真一
●株主数 2名 立山黒部貫光株式会社 富山地方鉄道株式会社	常務取締役 経営管理本部副本部長・ ホテル事業部長 川高 健裕
	取締役 経営管理本部副本部長・ プロジェクト推進室長 中田 邦彦
	取締役 技術環境部長 杉林 義宏
	取締役 総務部長 内山 高宏
	監査役 出来田 肇
	監査役 新庄 一洋

### アルペンルートと会社のあゆみ

昭和27年 4月 1日	立山開発鉄道株式会社（TKR）設立（資本金2,500万円）
29年 8月13日	鋼索線（千寿ヶ原～美女平）営業開始
30年 7月 1日	高原バス（美女平～弘法）営業開始
31年10月 4日	弥陀ヶ原ホテル営業開始（TKR）
35年 5月 8日	立山黒部有峰開発株式会社（TKA）設立
39年 6月20日	高原バス全線（美女平～室堂）営業開始
8月 1日	関電トンネルトロリーバス（扇沢～黒部ダム）営業開始
11月 7日	TKA第34回取締役会で新会社（TKK）設立を決議
12月25日	立山黒部貫光株式会社（TKK）設立（資本金4億円）
42年12月24日	立山貫光ターミナル株式会社（TKT）設立（資本金3,000万円）
44年 5月 8日	室堂ターミナルビル建設工事着工
7月20日	黒部ケーブルカー（黒部湖～黒部平）営業開始
12月 9日	立山トンネル貫通
45年 7月 1日	富山～信濃大町間を「立山黒部アルペンルート」と命名
7月25日	立山ロープウェイ（黒部平～大観峰）営業開始
12月15日	一般自動車道 桂台～美女平間供用開始（TKA）
46年 4月25日	立山トンネルバス（室堂～大観峰）営業開始
6月 1日	立山黒部アルペンルート全線開業
47年 8月28日	室堂ターミナルビル全館完成
9月 1日	ホテル立山営業開始
54年10月 1日	TKKとTKAが合併
61年 4月11日	宇奈月国際ホテル新築工事着工
62年 9月21日	宇奈月国際ホテル営業開始
平成 2年10月 1日	立山黒部サービス株式会社（TKS）設立（資本金1億円）
3年10月11日	弥陀ヶ原ホテル改築のため閉館
6年 7月12日	弥陀ヶ原ホテル改築営業開始
12年 4月 1日	弥陀ヶ原ホテルTKRから経営受託
17年10月 1日	TKKとTKRが合併（存続会社 立山黒部貫光株式会社）
21年 4月 1日	宇奈月国際ホテルTKKから経営受託
令和 3年 3月31日	宇奈月国際ホテル、弥陀ヶ原ホテル TKKとの経営委託契約を解消
4年 9月 1日	ホテル立山 開業50周年記念日
6年 3月29日	ホテル立山不動産譲渡



# ご案内



〒930-1414富山県中新川郡立山町芦峯寺室堂

☎(076) 463-3345 FAX(076) 463-3348

<https://h-tateyama.alpen-route.co.jp/>

(編集・発行) 立山貫光ターミナル株式会社

〒930-8558富山県富山市桜町1-1-36

☎(076) 441-3331(代表) FAX(076) 433-1185